

私が見た信長公の居館

私が信長公に出会ったのは、彼が造った新しい宮殿を見に行く途中のことです。「いつ着いたのか」とたずねられ、私の来訪を喜んでくれた様子でした。その後10人前後で宮殿に向かったのです。



清々しさ・美しさ・豪華さ・清潔さにおいて、私はこの宮殿に並ぶものを全く見たことがありません…

この宮殿は、2年前信長が武力をもって奪い取った、この美濃国の主城がある非常に高い山のふもとに建てられています。宮殿の外側には、石灰をまったく使わず、面積が広い上に見事に完成した石垣(裁断されない石の壁)があります。まもなく広場があり…入り口には、上演や公の祝祭に使う大きな劇場ふうの部分があります。広場の両側には木陰を作るための2本の大きな果樹がありました。長い階段を上ると、インドのゴアにあるサバヨよりも大きい部屋に入ります。



発掘された刀

宮殿の中には、技巧を凝らして丁寧に作られている部屋や廊下、前廊、廁(トイレ)が数多くあったと記憶しています。普段は誰も入ることなく、私達と一緒にいった佐久間信盛殿、柴田勝家殿も宮殿内を見るのは初めてだったとおっしゃっていました。



内部の部屋は大広間はクレタの迷宮であり、すべてが巧妙に思いのままに作られていました。…広間の最初の廊下には15か20の座敷へといたりますが、これらは屏風で飾られた部屋です。…廊下の外側には5〜6の美しい庭があります…

2階には大部屋と奥方の部屋があり、その侍女の部屋がありますが、階下よりずっと優れています。

3階は山側へと、通路で同じ高さでつながっており、チャと称する粉末でできたものを飲む立派で美しい部屋、すなわち茶の座敷があります。…3階と4階の見晴らし台からは町の全体が見えます…

参考文献 『アルカラ版イエズス会士書簡集』 岐阜歴史博物館蔵

略年表

時代	西暦	和暦	城主	ことから
鎌倉	1201~03	建仁年間	二階堂行政	鎌倉幕府の軍事目的の稲葉山に城を築いたと伝えられる。
室町	1525	大永5	長井氏	長井藤左衛門尉長弘・新左衛門尉(高藤道三の父?)、守護土岐氏、守護代斎藤氏を追放。
	1535	天文4	斎藤道三	長良川大洪水。道三と土岐次郎・朝倉氏・六角氏の間で合戦が始まる。このころ斎藤利政(道三)が稲葉山城に拠点を置く。
	1553	天文22		斎藤道三、織田信長と富田・聖徳寺で会見する。
	1554	天文23	斎藤義龍	斎藤道三、家督を利尚(義龍)に譲る。
	1556	弘治2		斎藤義龍に攻められ、斎藤道三敗死(長良川の合戦)。
	1561	永禄4	斎藤龍興	斎藤義龍病死。子の龍興が跡を継ぐ。
	1564	永禄7		斎藤龍興、竹中半兵衛らに稲葉山城を占拠され退城。
安土桃山	1567	永禄10	織田信長	織田信長、稲葉山城を攻略し、本拠を小牧から井口へ移す。井口を岐阜と改名する。
	1569	永禄12		ルイス・フロイス、岐阜来訪。
	1576	天正4	織田信忠	織田信長、安土城へ移り、嫡男織田信忠が跡を継ぐ。
	1582	天正10	織田信孝	本能寺の変(織田信長・信忠自刃)。信孝(三男)入城。
	1583	天正11	池田元助	池田元助入城。
	1585	天正13	池田輝政	池田輝政入城。
江戸	1591	天正19	豊臣秀勝	豊臣秀勝入城。
	1592	文禄元	織田秀信	織田秀信(信長嫡孫、信忠の子)入城。
	1600	慶長5		関ヶ原の合戦の前哨戦で落城。以後廃城となる。岐阜町及び金華山は尾張藩領として幕末に至る。
明治	1910	明治43		復興天守建造
昭和	1943	昭和18		復興天守焼失
	1956	昭和31		復興天守再建



現在の庭園の「州浜」

岐阜公園へのアクセス

バス

JR岐阜駅・名鉄岐阜駅から、岐阜バス市内ループ線左回りまたはN21~N86系統に乗車(約15分)「岐阜公園・歴史博物館前」下車すぐ

駐車場

岐阜公園堤外駐車場(1回300円、1時間以内は無料)



お問合せ

岐阜市教育委員会 社会教育課
〒501-8720 岐阜市神田町1丁目11
TEL.058-265-4141

発掘情報はブログで公開中!
<http://nobunaga-kyokan.jp>

ルイス・フロイスと歩く

岐阜城 織田信長公居館跡

私の名前はルイス・フロイス、ポルトガルから来たイエズス会の宣教師です。私はかつて織田信長公にキリシタンの支援をしていただくため、岐阜を訪れました。信長公の岐阜入城から2年後、1569年6月のことです。ここでみなさまに、私が書き残した手紙や、発掘調査の成果をもとに、信長公の居館の様子を紹介したいと思います。



ルイス・フロイスさん [イメージ](当時37才)



イラスト：加藤由朗

石敷きとカマド

加藤栄三・東一記念美術館建設時の発掘調査で見つかりマシタ。石敷きは右で紹介した州浜みたいなものによく似ていますネ。カマドは煮炊きのほか湯殿（蒸し風呂みたいなもの）のお湯を沸かしたものが考えられます。

カマドは現在、美術館内で展示されていますヨ。



戦国時代を感じる岐阜公園発掘めぐり

※安全上、立入禁止の部分もあります。

フロイスさんの見学おすすめスポット

復元されている巨石列は、他の城にはほとんど例がないそうで、信長公の宮殿を語る上では欠かせないスポットですネ。細かくは覚えていませんが、何段かある平坦な場所には4層の宮殿をはじめ建物や庭がありました。この段々の地形は信長公の義父の斎藤道三公のころに造られたらしいデスヨ。ところで滝や周囲の岩肌のながめは素晴らしいでしょう？一見の価値アリです。このあたりの地形は戦国時代と大きく変わっていないと思いますヨ。



信長公の庭園か？

川原石を粘土に敷き詰めた跡が見つかりました。池のふちに石を貼る「州浜（すはま）」というものによく似ているそうです。私が見た庭園だと思うのですが…くわしくはこれから調査していただきますヨ。



火災にあった建物跡

なんと60cmもの厚さの焼けた壁土がたまっていたそうです。その下から建物の礎石を発見！私が見た茶室でしょうか？壁土が厚いので隠れたかも。こんな谷の奥まで利用したのですね。



戦国時代の井戸

一番下の平地の部分には石組みの井戸があります。江戸時代の絵図ではこのあたりが四角く色分けされているので、何かの建物があったと思うのですが…そういえば四角い部分の南側を調査したら堀の跡がありましたね。

この井戸は現在復元されていますヨ。



石組み水路と石垣

上流にある滝の水は、もともとこの水路を流れています。水路の右側にみえる石垣は本格的なつくりで、他のお城にさきがけて造られたようです。



戦国時代の「大道」？

信長公の宮殿と武家屋敷の間には大道（おおみち）というメインストリートがあります。その道路側溝かも知らない溝が見つかったようです。いまの道路とほぼ同じところで見つかったので、基本的にはあまり変わっていないのかもしれませんがね。



通路と巨石列

これはスゴイ！通路の両側には背丈ほどある巨大な石が立て並べられていました。まさに裁断されない石の壁！何を思って信長公はこの巨石列を造らせたのでしょうか？居館の入口を象徴しているようです。



階段跡

上段の平坦地にまっすぐのびる階段が見つかりました。私が見た「階段」でしょうか？周囲では焼けた壁土や炭化物が見つっています。岐阜城が落城したときに建物が焼けたようですネ。

